

6

打ち出し金具の表現方法及び技法を活かした課題の可能性

— 教材モデルを活かした「彫金プロジェクト」— (2013年度)

庄司喜久美 押山元子 春田幸彦 成井美穂

金工研究室

本研究は、新しいジュエリー・金工課題の試みとして「彫金」を現代の学生の感性を通して解釈させ、現代に活かす造形教育に取り組むものである。

この目的には、大学ならではの研究活動を含む課題への取り組みを経験することで、新たな気付きからのデザイン発想と提案、制作工程の思考から工夫とアイデアの発見、そして完成物の発表までを段階を追って習得することである。

課題内容は、彫金金具の技術と表現の深さを知ることから始め、新しい提案へと導く過程を設定するために、実物教材モデルを3年に亘り蒐集した。平成23年度には「打ち出し金具行程見本」2種類、24年度、25年度には「打ち出し金具」7点を購入した。

26年度から、教員個人研究金具などを合わせ計25点の資料を基に「彫金プロジェクト」として半期課題をスタートさせた。

課題の流れとしては、1. 知ること／気づくこと／2. 実物金具の計測と技法調査／3. 浴衣に提案する帯留め金具のデザイン／4. 模型制作／5. 実物制作／6. 発表である。

この結果としての効果は以下の点がみとめられる。

1. 実物を手に取り計測しながらその技法と表現を観察できたことは、専門家でもそのような機会は少ない事を考えると、大変恵まれた環境を設定でき、感動を共有できた。

2. 彫金金具の技術と表現には様々な制約があるが、そこに拘らずに学生の視点で捉え、現代に活かす「今着たい浴衣に使用する帯留め金具」として楽しめるデザインにまとめた。

3. デザインはワックスを中心としたモデル制作を行い、それを通して完成までを検証することで複雑な最終仕上げに至る制作過程の問題点に気づく経験を得た。

4. 実物制作では、打ち出しおよびワックス原型による鑄造を含む様々な技法を組み合わせ、デザインの具現化の工夫に挑戦した。5. 発表形式は実際の浴衣につけてそのデザイン性、完成度の検証を全員で話し合い次回への参考意見として纏めることで、新しいものの提案について様々な視点で考えられることが見込まれる。今後継続して取り組むことで新たな表現の気付きを自ら発見していく姿勢を育てて行きたい。



亀金具



ほおじろ金具



チューリップ金具



フリーズア金具



竜の落とし子金具



とらぶく金具



調査



デザインプレゼンテーション



制作過程



模型確認



完成品